

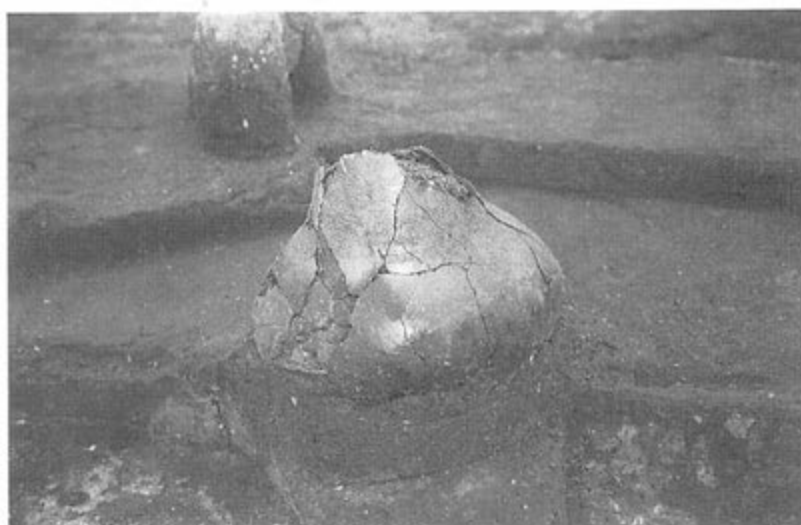


埋文だより

第18号

平成10年12月10日発行

塞ノ神式土器の完形壺，現る！



城ヶ尾遺跡

《所在地：始良郡福山町佳例川》

埋設された壺形土器

城ヶ尾遺跡は福山町の北西部、標高約380mのシラス台地上に立地する遺跡です。東九州自動車道建設工事に伴い、平成10年5月から発掘調査が行われ、約7,200年前（縄文時代早期後葉）の塞ノ神式土器と呼ばれる土器が多く出土しています。塞ノ神式土器は、口縁部がラップ状に開く深鉢形土器が一般的ですが、城ヶ尾遺跡では深鉢形土器のほかに、文様の異なる2種類の壺形土器が小さな土坑に埋設された状態で出土しました。

写真のこの土器は口縁部から頸部にかけて数本の微隆起線文が巡らされた壺形土器です。口縁部だけの破片はこれまでも知られていましたが完形品の出土は初めての例です。

このほかに口縁部から頸部にかけて沈線文を施した完形品の壺形土器も出土しています。沈線文が施された壺形土器は鹿児島県では初めての出土例です。

目次

頁

- | | |
|--------------------------|-----|
| ・塞ノ神式土器の完形壺，現る！ | … 1 |
| ・上野原フェスタ，98 / 県民セミナー発掘体験 | … 2 |
| 発掘遺跡紹介 | |
| ・上山路山遺跡 | … 3 |
| ・柘原貝塚 | … 4 |
| ・上野原遺跡25万人突破 | … 5 |
| ・堂平窯跡 | … 6 |

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、

日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、

入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

上野原フェスタ' 98 ~われら縄文体験隊キャンプ~



縄文服作り

国内最古で最大級の集落跡が発見された上野原遺跡で、上野原フェスタ' 98実行委員会の主催による『上野原フェスタ' 98』が7月25日から29日まで開催されました。縄文土器作りや丸木舟作りなど様々な体験コーナーでは、多くの県民の参加がありました。

また、27日～29日には『われら縄文体験隊キャンプ』を実施し、小学生から高校生まで94名が参加しました。参加者は、縄文服作りや弓矢作り等に挑戦し縄文鍋の夕食をとり、竪穴住居で宿泊しました。

異なる年齢の参加者が協力し合って活動することで貴重な体験ができたようでした。

～歴史のふるさと県民セミナー～発掘体験と古代の生活体験

当センターでは、県民を対象に、8月1日に末吉町桐木遺跡と国分市上野原遺跡で「発掘体験と古代の生活体験」を開催しました。桐木遺跡で発掘体験を、上野原遺跡では古代の生活体験を行いました。

当日は、Aグループと埋蔵文化財センター出発国分駅経由のBグループの合計73名の参加がありました。西鹿兒島駅出発のAグループにはテレビ局の密着取材もあり、まずはバスで一路上野原遺跡へ。午前中に集石を使った石蒸し料理や連穴土坑を使った薫製風たまごに舌つつみ、石斧による丸木舟製作、古代織物作りなどの様々な古代の生活体験にチャレンジしました。午後からは、場所を桐木遺跡に移し発掘体験を行いました。午前中にはBグループが同じ場所でたくさんの土器を掘り出しましたが、午後からのグループもそれに負けじとたくさん見つけていました。親子共々、時のたつのも忘れて移植ごてを手に楽しいひとときを過ごしていたようです。



発掘体験



連穴土坑を使った薫製風たまご

発掘遺跡紹介(16)

9, 500年前の道跡

上山路山遺跡 《所在地：日置郡伊集院町大田》

上山路山遺跡は伊集院町大田の標高約130mのシラス台地上に位置しています。南九州西回り自動車道の建設予定地内の約6,000㎡を平成9年5月～8月、平成9年12月～平成10年3月の2回にわたって発掘調査しました。

その結果、旧石器時代から古墳時代までの遺構・遺物が見つかりました。主体は縄文時代早期前葉(約9,500年前)で、約8,000点出土した遺物のほとんどが、岩本式土器・前平式土器を使用していた時期のものです。



縄文時代早期の道跡



赤彩土器の出土状態

今回は、台地の端と谷へ下る斜面の調査が中心で、住居の跡などは確認できませんでした。集石(調理施設)が3基発見されました。また、調査範囲外の集落があると思われる台地上から谷へ道跡が2条発見されました。

縄文時代早期の道跡

道跡は2条がY字形に合流して1本となって谷を下っています。発見された長さは、1条が約64mで、合流した後は8mでした。

縄文時代早期の道跡が発見されたのは、県内では上野原遺跡(国分市)や、前原遺跡(松元町)などに次いで5例目となりますが、谷へ下る道が発見されたのは今回が初めてです。

日本最古級の赤彩土器

出土した岩本式土器のなかに、内側の縁に沿って、2cm位が赤く塗られているものが5点ほどありました。調べてみるとベンガラが付着していました。なぜ、赤色に塗った土器を作ったのかわかりませんが、特別な意味があったのでしょうか。

県内では、この時期の赤彩土器は、岩本遺跡(指宿市)や、稲荷原遺跡(伊集院町)などで出土しています。

発掘遺跡紹介(17)

貝塚を残した人々の高い精神文化

柘原貝塚 〈所在地：垂水市〉



柘原貝塚は、垂水市街地から南東に約6km離れた標高約9mの地点に所在する遺跡です。県営農免農道整備事業に伴う発掘調査で平成9年6月2日から平成10年7月31日まで実施されました。縄文時代後期から古墳時代にかけての各時代の資料が多く出土しましたが、中心となるのは貝塚が形成された縄文時代後期から晩期初頭(約3,500年前から3,000年前)にかけての時代の生活跡です。

貝層の厚さは平均約1.1mで、今回の調査で調べた範囲だけでも500㎡に及ぶ大規模なものでした。貝塚は貝に含まれるカルシウム分のために、他の遺跡では腐って残らない骨等がよく残っており、柘原貝塚からは5体の人骨や多量の動物や魚の骨が出土しました。他にも土器・石器・骨角器といった貴重な資料が多量に発見されました。中でも、何かの動物をかたどったと考えられる土製品、飾りが付いた土器、様々な大きさの楕円形の軽石に線が刻まれた岩偶と呼ばれるもの(様々な形状のものがあり、赤色顔料が付着しているものもある。)や、軽

石で作られた直径約30cmの環状のものが注目されます。

これらのものは祭祀に関係あるものと考えられていますが、正確には何なのかよくわかっていません。ただ、特別なものであることは間違いなく、貝塚を残した人々が高い精神文化を持っていたことをうかがわせる貴重な資料といえるでしょう。



軽石製の岩偶

上野原遺跡復元公開見学者25万人達成！

昨年5月27日から一般公開を続けてきた上野原遺跡は、1年半近く経過した現在も毎日大勢の人々が見学に訪れています。

国内最古最大級の集落遺跡としての上野原遺跡は、県内外にとどまらず海外からの見学者を含めて多くの人の興味・関心が高いようです。

今年度は『上野原フェスタ'98』も開催され、夏からのにぎわいが秋になっても続いており、小・中学校の遠足や各種団体の研修旅行等の見学者が目立って多いようです。

そうした中、9月29日(火)には開場以来の見学者が25万人を達成し、記念セレモニーを実施しました。

記念すべき25万人目となったのは、大崎町から見学にこられた船越寿美子さん。船越さんには、記念品として縄文土器(平椀式土器)の複製品を贈呈しました。また、その前後の方には壁掛けになるように額装した石器の複製を記念品として贈呈しました。

県では、上野原遺跡の適切な保存を進めながら、南の縄文文化を中心にした調査研究・体験・交流・学習等の拠点機能を備えた「上野原縄文の森(仮称)」を整備し、縄文世界にふれあい・学び・親しむ場を県民の皆様に提供する予定です。なお、上野原遺跡は平成10年10月16日、国の文化財保護審議会から文部大臣へ「国指定史跡」としての答申がなされました。



上野原遺跡見学者25万人目達成！

鹿児島県立埋蔵文化財センターで公開

国の重要文化財 「上野原遺跡出土品特別展」

期間：平成10年12月1日(火)～平成11年3月27日(土)

時間：9:00～17:00(日曜・祝日・年末年始は休館)

入場：無料

場所：始良郡始良町平松6252 鹿児島県立埋蔵文化財センター
(JR重富駅より徒歩15分)

堂平窯跡

《所在地：日置郡東市来町美山》

堂平窯跡は標高90m足らずの丘陵斜面を利用した江戸時代前半の窯跡で、西方向に開口しており、長さが約30m、幅が1.2mの断面形が半円筒形の単室傾斜窯です。床面では5回のつくり替えが観察できます。窯の周囲には窯壁の碎片を版築状に敷きつめており、窯本体は一段掘り窪めてつくってあります。窯の北側は平坦で、ここでは多くの柱穴や石囲いの穴、素掘りの穴などが発見されています。これらは、窯に伴う作業場の可能性が考えられます。



堂平窯の全景

南側の谷へ落ちる急斜面には多くの陶器・瓦・置台・窯壁材などが捨てられ、厚い所では1mを越す部分もあります。

出土品には陶器・瓦・窯道具などがあります。薩摩焼には黒ものと白ものがありますが、ここでは黒ものが主として焼かれ、白ものは数十点しかありません。黒ものにはかめ・壺・徳利・猪牙・蓋・渡瓶・こね鉢・摺鉢・花鉢・動物形土製品などがあります。軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・のし瓦などの多くの瓦も出ています。軒丸瓦は中央に小さい珠文があり、三つ巴が囲み、さらにその外を珠文と唐草文が囲む珍しい文様です。軒平瓦は唐草文です。この他に、鬼瓦の頭にある菊花文の鳥ぶすまもあります。

焼く時に使われるさまざまな道具では、馬のひずめ形・鼓形のもの、ドーナツ状のもの、さや鉢などの置台がもっとも多く出ています。また、かめなどを窯に据えたり、壺を重ねて置く時にお互にくっつかないように貝殻をおいたことが、かめの上部や鉢の底などに残された痕跡でわかりますが、これを使うために貯えたと思われるアサリやハイガイなどの貝殻がたくさん出土しました。



埋文だより 第18号
 発行日：平成10年12月10日
 編集・発行
 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 〒899-5652
 鹿児島県始良郡始良町平松6252
 TEL 0995-65-8787